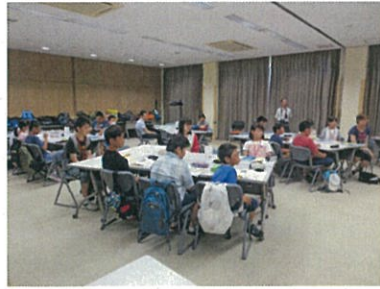


平成27年度 ふるさと「ふくしま」の学び事業 「ジャーナリストスクール」

活動 1 日 目



< 開 会 式 ① >



< 開 会 式 ② >



< 武内実行委員長 >



< グループミーティング① >



< グループミーティング② >



< グループミーティング③ >



< 取 材 ① >



< 取 材 ② >



< 取 材 ③ >



< 取 材 ④ >



< 取 材 ⑤ >



< 取 材 ⑥ >



< 記事おこし ① >



< 記事おこし ② >



< ミーティング >

活動 2 日 目



< 編集の流れ、見通し >



< 池上先生との交流① >



< 池上先生との交流① >



< 池上先生との交流① >



< 池上先生との交流② >



< 池上先生と集合写真 >



< 編 集 作 業 >

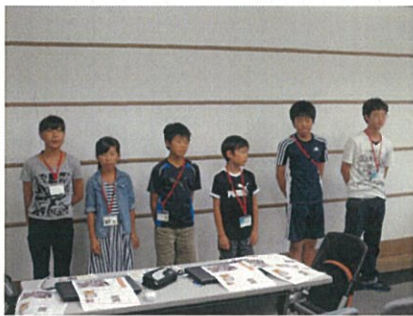
活動 3 日 目



<最終編集作業①>



<最終編集作業②>



<ふくしま発信 1 班>



<ふくしま発信 2 班>



<ふくしま発信 3 班>



<ふくしま発信 4 班>



<ふくしま発信 5 班>



<ふくしま発信 6 班>



<できあがった新聞を持って集合写真>

ふくしまの希望発信

完成した新聞を手にするジャーナリストスクールの参加者



ジャーナリストスクール

2015(平成27)年7月22~24日

会津若松市・会津アピオスペース

小中高生新聞作り

復興歩む県民の姿発信

東日本震災と東京電力福島第一原発事故から4年半。復興の道を歩む福島県の姿を県内の子どもたちが「新聞」にして発信する。

新聞作りを通じて本県、地の小学5年から高校3の現状を知り、伝える技術年までの33人が参加し、術を学ぶ「ジャーナリスト」。

トスクール」は7月22日、3回目となった同スクールから24日までの3日間、1ル。1昨年は二本松市、会津若松市の会津アピオ。昨年はいわき市が取材場、スペースをメイン会場に。所て、今年はいわき市が取材場、また原発事故の風評被害

ちは6班に分かれ、それぞれ2カ所、合わせて12カ所で取材を行った。会津地方には、原発事故の影響で住み慣れた古里を離れて避難生活を送る人たちが数多くいる。厳しい状況の中、希望を届けて創作活動や仕事に励む避難者に子どもたちは会い、話を聞いた。情熱を感じていた。

取材後は地元新聞社の記者や、高校の新聞部顧問の先生のアドバイスを受けながら記事を書き、撮影してきた写真を選び、新聞作りを挑戦した。パソコンを使って実際に紙面を制作。1つづつて伝えようかな」「大勢の人に読んでほしい」「子どもたちは工夫を重ねて新聞を完成させた。最後は班ごとに、自分たちの新聞を披露した。取材で発見したこと、紙面に込めた思いを紹介し、未来のふくしまを支える一員となる誓いを新たにした。

池上彰さんが指導

スクールではジャーナリストで、東京工業大学教授の池上彰さんが特別



子どもたちに新聞作りのコツを伝える池上さん

講師を務めた。池上さんは子どもたちに取材のコツや記事の書き方を指導した。各班から取材内容を聞いた池上さんは何を伝えたいか、はっきりとした思いを持つことが大事」「具体的な言葉で、分かりやすく伝えてみよう」などと助言した。また自分がジャーナリストを目指したきっかけや、苦勞談などを語った。池上さんは事実を正確に、分かりやすく伝えることの大切さや難しさを説き、情報を基に自分の頭で考えるよう子どもたちに訴えた。

ふるさと「ふくしま」の学び事業

子どもたちによる新聞作りを通じて、ふくしまの復興を担う子どもたちの育成を図ることを目的に実施した事業です。

見て聞いて考えて…伝えた 古里の活力



会津坂下町の菓子店「長岡家」での取材。端午の節句に食べるのは、浜通りでは柏もち、会津ではちまきと違いがあることも発見した

ジャーナリストの池上さんからアドバイスを受ける子どもたち。「何を伝えたいのかな」とうややと表現しようか、池上さんの助言で記事の構想が膨らむ



レイアウトはこれでいいかな? 見出しはどうしよう? パソコンを使っての紙面づくり。仲間力を合わせ、オリジナルの新聞を完成させる

会津地方で、2泊3日にわたって繰り広げられたジャーナリストスクール。県内各地から集まった小中高生30人は、取材から執筆、編集まで熱心に取り組んだ。憧れのジャーナリスト池上彰さんとも交流。高校の新聞部顧問の先生や地元新聞社の記者からは、新聞についてさまざまなことを学んだ。



実行委員長で相馬高新聞部顧問の武内義明教諭。ジャーナリストスクールの狙いを語った

地元新聞社の記者から記事の書き方などを学ぶ。うん、どうやってまとめよう。新聞づくりって難しい



まずは新聞を手にして読んでみよう。君が興味のあるニュースは何かかな?



会津美里町の仮設住宅で暮らす檜葉町からの避難者でつくる「わらじ組」を取材。話を聞いただけでなく、実際にわらじ作りも体験した

完成した新聞をみんなの前で披露。ちよとキドキ、でもうまく発表できたよ



発行

福島県文化スポーツ局生涯学習課

〒960-8670 福島市杉妻町2-16 TEL 024 (521) 7784 FAX 024 (521) 5677

子どもたちの感想

- ・ 取材に行ったり、コンピューターを使って新聞を編集したり、初めて新聞を作る体験を行った。また、やってみたい。(小5男)
- ・ 取材や新聞作りをとおして、今でも会津で頑張っている人がたくさんいるということが分かった。自分も前向きにこれからも頑張っていきたい。(小5女)
- ・ 池上先生との交流では、池上先生がなぜ、ジャーナリストになりたかったのか、ジャーナリストとして嬉しかったこと、つらかったことを教えていただいた。とても分かりやすかった。(小6男)
- ・ 私たちは3日かかって新聞を1枚作ったけど、新聞記者さんは1日で何倍もの取材をしたり記事を書いたりしているのがすごいと思った。(小6男)
- ・ 新聞作成の編集は難しかったけど、新聞記者の方に協力していただきながらの新聞作りは楽しかった。(小6女)
- ・ 文章作りには自信があったが、できた新聞をじっくり見ると文字が抜けていたり、表現が間違っていたりした。ジャーナリストの大変さも体験することができた。(中1女)
- ・ 現地に行って取材をし、自分の手で原稿を書き、仕上げるのは普段なかなかできないことであり、とても良い経験になった。参加した友だちは県内様々な地域から来ており交流する良い機会になった。(中2女)
- ・ 物事のまとめ方について学ぶことができた。新聞に興味があった。(中3男)